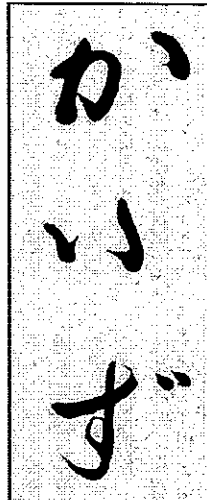


谷教育学園
張中高等学校
千代田区若葉1-3
電話 043-271-1221
図書部広報係



谷教育学園
谷中高等学校
東京都渋谷区渋谷1-21-18
電話 03-3400-6363
総務部



Water is Life

July 24-28, 2018

Water is Life
2018 特別号

平成二十六年、全国の高校の中から本学園二校はSGH (Super Global High School) に選定され、「グローバルリーダーの育成」を目標とした教育実践を積み重ねてきた。そして五年目を迎えた本年、その集大成としての「シンポジウム」を計画実施した。

本年七月二十四日から二十八日にかけての渋谷教育学園主催「世界高校生水会議 Water is Life 2018」がそれである。国連のガイドライン (SDGs) に沿った「水」をテーマとした「シンポジウム」である。会議は素晴らしい成果をあげて無事終了した。

世界五大大陸代表の十八ヶ国から高校生約百四十名、引率教員約五十名が集い、国際公用語 (英語) のみを使用したの会議である。

この会議に参加するということ、現在強く求められている高校生のアクティブラーニングに大きな影響を与え



田村 哲夫

渋谷教育学園 理事長



る成果をあげたと自負している。高校生たちは学習に動的に参加し、プロセスや学習結果を振り返ってモニタリングすることや、自分で情報や概念をつくる (それは持っている知識や経験を繋いで行う) ことの実践を経験した。

またアクティブラーニングの類型化としてPBL (Problem Based Learning) や Project Based Learning) に分ける考え方があがるが、高校生たちはこの会議の中で、それぞれのテーマに応じて見事に実践結果を示してくれた。

各国代表の高校生たちの研究発表テーマとこの会議での発表内容は、世界の高校生たちの水準の高さと深さを実感させてくれた素晴らしい交流であった。

こうした経験のなかで、世界中の高校生と競い、渋谷高校の代表生徒は、Water is Life 賞教育部門第一位を、幕張高校の代表生徒は、トヨタ賞現地現物部門賞とサントリー賞第一位を獲得した。

林芳正文部科学大臣による開会式のご挨拶によって始まった暑い夏の一週間であったが、この経験は本学園の生徒たちにとって代えがたい経験をもたらしたと思っている。

これからの成長が楽しみである。



渋谷中学高等学校 副校長



高際 伊都子

Water's Life 2018 が無事に閉幕しました。開催にあたって、多くの在校生、保護者の皆さま、企業、団体の方々にご理解、ご協力をいただきました。お力添えをいただいた全ての方々から感謝を申し上げます。

一年半以上にわたる準備期間は、試行錯誤の繰り返しでした。初の日本開催が印象深いものになるように、初日のオリエンテーションから最終日のフォトセッションまで、参加生徒、教職員をはじめ、A・L・I渋谷教育学園として工夫をこらしました。やりがいも多く、振り返ってみても、あっとい間楽しい五日間になりました。

ハイレベルな会議の期間中、参加生徒、キャスト、ホスト等々、それぞれが与えられた立場で立派な活躍を見せていました。互いに協力しあい、会議を支える姿がとて頼もしく、多くの参加者から、称賛の声をいただいたことはその証しです。Face of Face のやりとりが、言葉を越えて人を暖かい気持ちにさせ、心の交流を育んだことと思います。様々な違いを乗り越えて達成した今回の経験を、将来の糧として大切にしたいと願っています。

幕張中学校・高等学校 副校長



田村 聡明

スーパーグローバルハイスクール事業の集大成として企画されました Water's Life 2018 が、学校内外の皆さまのご協力により、盛大に開催され、無事終了しました。ホームステイをお引き受け頂きました保護者の皆様、ホストやキャストとしてお世話頂いた生徒の皆さん、各賞の準備から英語によるワークショップ・ホスタブプレゼンテーション(講演、更にはご寄付に至るまで)ご協力を頂きました企業の皆様、会の組成・運営にご尽力頂きました教職員を含め、関係の皆様のご支援ご協力にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。本当に有難うございました。

争いが絶えない世界ではありますが、世界を平和に安心して暮らせる持続可能な社会として作り上げていくことが求められています。参加した生徒の皆さんには、同世代の他国の高校生とのグループセッションや話し合いなどの交流活動を通して、グローバルに活動することの意義を垣間見る良い機会になったのではないかと思います。貴重な経験を積み、視野を広げ、考えを深め、自身の力を養い、これからの世界での活躍を期待しています。

【一日目】渋谷

◇御挨拶

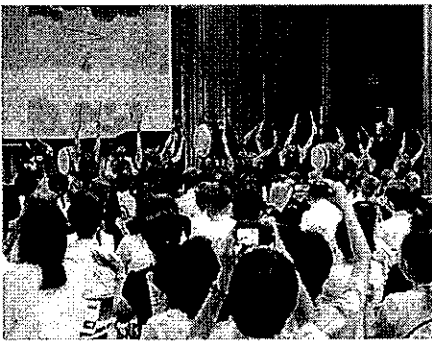
林芳正文部科学大臣から「この貴重な機会を使って、水資源問題に対するいろいろな国の視点を積極的に学んでほしい。」という熱いメッセージをいただきました。



挨拶される林芳正文部大臣

◇開会式

生徒MCによる開会宣言に続き、キャストによる勇壮な和太鼓の音が響きわたりました。高副校長による歓迎の御挨拶の後、ダンス部が孔雀の舞を披露しました。最後は各国代表の紹介で盛り上がりました。



◇基調講演①

ユネスコ第八代事務局長を務めた松浦晃一郎氏が、持続可能な社会を築く上での水資源問題の持つ重要性について、ご自身の体験を踏まえた、説得力のある講演を下されました。それに続き、Water's Life の教育的な意義についてパネルディスカッションが行われました。



講演される松浦晃一郎氏

◇ランチ

和のおもてなしをテーマに味と色合いと栄養を工夫した渋谷でのお弁当は大好評。キャストによるイラストと食材の説明を記したメニューをつけました。



◇東京謎解きオリエンテーション

渋谷の社会科学研究所とクイズ研究部の生徒が作った問題を解いたり、指示されたタスクを楽しみながら異なる国籍で構成された小グループで東京を探索しました。



「清澄庭園にて」

◇神社で手水を体験



【二日目】 渋谷

◆基調講演②

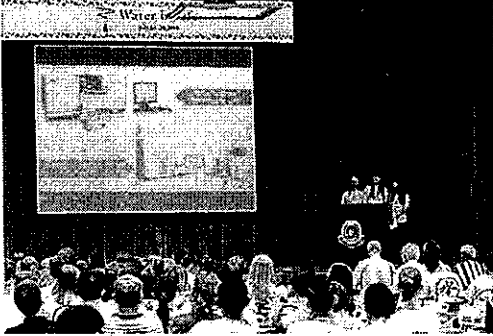
オルガノ(株) 取締役兼常務執行役の明賀春樹氏が超純水製造技術に関する講演をしてくださいました。先進的な技術の開発に直接関わった方のお話に参加者全員が興味津々でした。



講演される明賀春樹氏

◆全体会でのプレゼンテーション

優秀な論文を提出した六チームが研究内容を発表しました。写真はヒ素を検出する装置の試作をしたタイのチームです。



◆関連施設見学

お会場にある有明水再生センターを見学しました。案内役は下見や勉強会をしながら今年の初めから準備を重ねてきた渋谷のキャストです。専門的な内容を英語で説明するのは大変でしたが、海外の引率教員からお褒めの言葉をいただきました。



◆水上バスで浅草へ

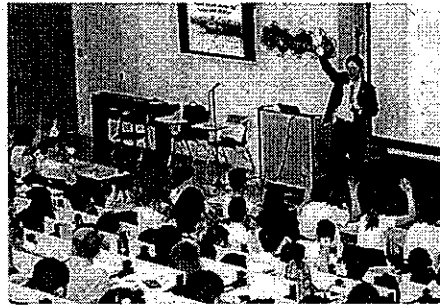
お会場から水上バスに乗り、参加生徒と引率教員とで、隅田川沿いに東京観光を楽しみながら浅草に向かいました。



【三日目】 幕張

◆基調講演③

国連大学上級副学長沖大幹氏が地球上の水の循環について研究する水文学 (Hydrology) について高校生にも分かりやすく説明してくださいました。



講演される沖大幹氏

◆オーラルプレゼンテーション②

前日に行った六チームを除いて全チームがプレゼンを行い、



審査も行われました。どのチームもよく練習してきており、研究内容の面白さや、プレゼンの仕方など、互いによい刺激を受けた様子でした。

◆ポスターセッション

十八ヶ国からやって来た四十三チームがポスターを使って自分たちの研究を発表しました。来場者は五百名を超え、生徒投票により上位五チームが選ばれました。サントリーと片山ナルゴ社もポスターブースを出してご協力いただきました。



◆SGH研究報告会

七月二十六日、渋谷高校と幕張高校合同のSGH研究報告会を、全国の指定校をお招きして、幕張で開催した。

両校ともSGH初年度の平成二十六年度に指定を受け、五年間の取り組みを続けてきた。最終年度に当たり、その成果を発表する機会を設けたものである。両校の生徒の発表を中心に構成

し、発表後は質疑が止まないほどの熱気であった。

午後は同時開催中のWILのポスターセッションの見学と投票にご参加いただいた。
(幕張高校 深村 誠)



渋谷高校



幕張高校

【四日目】 幕張

◆ワークショップ

トヨタのワークショップは前々日から設営が始まり、運び込まれた装置は実際に触れることもでき、大変興味深いものでした。この他、渋谷の佐藤マナブ教諭が物理的実験を、幕張の佐原奈保子教諭は硬度測定を中心とした実験を行いました。生徒がガイドを務めた谷津千湯ワークショップも好評でした。



トヨタのワークショップ

◇分科会

渋谷と幕張それぞれのファシリテーター講座を修了した生徒たちが、WIL参加生徒の各グループに入り、ディスカッションをサポートしました。テーマは三種類、それぞれの班で、高校生として何ができるかというアクションプランを考えました。幕張高校三年生六名が中心となつてファシリテーターをまとめ、分科会のスムーズな進行を担いました。

◇日本文化体験

お琴、お抹茶、折紙、団扇作り、墨流しや墨を磨る体験をWIL参加者にしてもらいました。写真は渋谷の箏曲部の生徒と幕張のお琴経験者が協力して行つたお琴体験です。実際に爪をつけて弦をはじいてみるのは皆さん初めてのことだったのでしよう。



【五日目】幕張

◇全体会

台風の影響で急きよ変更して、分科会2を削り、全体会はテーマ毎に各班がまとめたアクションプランを各班一分で次々発表してもらいました。最後に、本学園のファシリテーター講座で審査員も務められた(株)メディア総合研究所の福田訓久氏がコメントをくださいました。



お話しになる福田訓久氏

◇インターナショナル
パフォーマンス

参加チームが自国の文化を紹介し、歌あり踊りありで大変盛り上がりました。特に写真のオランダチームは、講堂の舞台から飛び出し、会場の人々を巻き込みました。前の人の肩に両手を掛けた人の列が幾重にも会場を行き交いました。



会場を巻き込んだオランダチーム

◇閉会式

槐フィルハーモニー管弦楽団によるオーケストラ演奏で幕を開けた閉会式は、田村聡明副校長の挨拶の後、企業賞、協会賞に続き、WILの五つのカテゴリー毎に一位から三位の発表が



WIL教育の部1位 渋谷 ShabuShabu 東京外国語大学の荒川洋平氏と

行われました。渋谷の ShabuShabu チームは WIL 賞教育の部で一位を、幕張の Changinba はトヨタ賞とサントリー賞をいただきました。企業賞の他にも協会賞や本校生徒が選んだ優秀ポスタープレゼン賞、SGH賞等もありました。



幕張 Changinba サントリーの富岡正樹氏と

○WILコーディネーターより
真夏の世の夢

五大陸から百四十人もの高校生が集まると考えただけでワクワクしながら、一年半に亘ってコーディネーターの仕事を楽しんできました。酷暑への対処など難題もありましたが、渋谷教育学園ならではの特色があったからこそ参加者にとって満足度の高いものになったでしょう。その一つは生徒主体ということ。両校で五百人を超えるキャストが、まさに自調自考の精神を発揮しながら、MCやガイドなど表舞台だけでなく、設営や翻訳そしてPCサポートなど裏方としてもきちんと仕事をしてくれました。

次にホームステイです。百七名の外国人生徒ひとりひとりに

ホストファミリーがついてくださったことには感謝の気持ちでいっぱいです。

そして両校の代表として一年前からリサーチをしてレポートを作成し会議で素晴らしい発表をしてくれた四チームにも惜しみない拍手を送りたいと思います。真夏の夜の夢がまさに現実になった一週間でした。

(渋谷高校 夏目 洋子)

WIL無事終了への三つの鍵
七月二十八日、台風のさなかWILは終了した。準備期間は長かったが、始まったらあっという間に終わった。振り返って思うのは、この会議を無事に終了させた三つの鍵のことである。

一つ目は、ホストファミリーを引き受けて下さったご家庭と生徒である。参加生徒のために親御さんは仕事をやりくりし、生徒は塾やお習い事を変更して対応してくれた。体調不良で休む参加者が一人も出なかったのは、ファミリーの努力の賜物だ。二つ目は、キャストとして参加した生徒たちの目覚ましい活躍である。全てを説明されずとも、機転を利かせ対応する両校生徒の動きは天晴だった。三つ目は、協賛してくださった企業や協会、審査員やパネリストとして参加してくださった方々の外からの支援の存在だ。この三つの要素が国際会議を無事終了へと導いてくれたと思う。

(幕張高校 細野 紀子)